

# 松山櫨便り

## 第9号

購読  
無料

1日・15日発行・櫨に関する情報求ム!

福岡県久留米市田主丸町で活動中!  
編集・発行 松山櫨復活委員会  
幹事・矢野真由美

耳納山の片隅で失われてしまった櫨紅葉の景観を復活させることを目的に、櫨の素人がまったりとその様子を伝えていく会報です。

ブログ公開中「松山櫨復活奮闘日記」 <http://blog.goo.ne.jp/elster/>  
連絡先 e-mail : [elster@mail.goo.ne.jp](mailto:elster@mail.goo.ne.jp) ホームページ「松山櫨復活委員会」 近日公開予定



櫨の花。毎年5～6月に咲く。雌しべについた花粉により実をつける。その実はもう親木とは違う種類の櫨になってしまう。

### 前号までのあらすじ

江戸時代に田主丸町森部で発見された櫨の優秀な品種「松山櫨」。回り道をしながらか、ついに

### なぜ接ぎ木なのか

なぜ松山櫨を復活させるために、単に松山櫨の種を播かず、接ぎ木をするのか。今回は接ぎ木に焦点をあてたいと思います。

例えば美味しい柿を食べると種が出てきますね。その種を庭に播くと、数年後には同じ実がなるのかと思ったら、それは大間違い。ご存じの方も多いでしょうが、種から育った木は、決して元の柿と同じ実はずけません。

一ヶ所だけ残っていた「松山櫨」の生息地にたどり着きました。

「松山櫨」を復活させるためには、接ぎ木をしなくてはなりません。

種には、もともとの花粉にいろいろな他の種の遺伝を含んでおり、そのまま親の柿と同じものにはならないのです。

つまり親は親。子供は子供ということです。

### 武兵衛のススメ

江戸時代に松山櫨を発見した竹下武兵衛は\*「農人錦の囊」の中で、こう書いています。

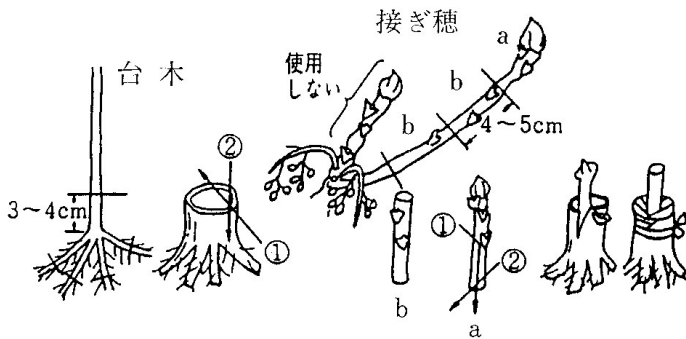
「どんなにいい種子を選んで百本植えても、五十本ぐらいは実をつけない木になる。残りの五十本が実をつけたとしても、そのうち品質の悪い実をつける木も多いし、上等の実をつけても量が少なく役に立たない木もある。このように実生にすると、あれこれ費用ばかりかかってしまう。これに対し、接ぎ木苗を仕立てて植えると、何本植えても全て上々の実がつく。従って接ぎ木した苗を植えるのが賢いやり方である。」(現代語訳・古賀幸雄)

## 松山櫨を復活させる唯一の方法

# 「接ぎ木」って何?

### 接ぎ木はクローン技術

接ぎ木というのは、増やしたい木(穂木)の一部分(接ぎ穂)を、台木(同じ品種の木)にくっつけて、穂木が台木から栄養を吸い取って育っていくようにしむけることです。



「ハゼと木蠟」 福岡県特用林産振興会より抜粋

### 歴史のある接ぎ木技術

櫨の接ぎ木技術に関しては「農人錦の囊」が世に出た寛延三年(1750年)には、既に確立していました。

現在でも、実のなる果樹苗はこうした接ぎ木技術によって生産、というより増殖されています。人間では禁止されているクローンですが、果樹苗業界では大昔から定番だったわけです。

ところで、接ぎ木には台木が必要ですが、今までは穂木の事ばかり考えて、台木の事をすっかり忘れていました。なんだか、いやな予感がしてきました。

続きは次号にて

※本会報を許可なく複製・転載すること、または部分的にもコピーすることを禁じます。

\*資料・日本農書全集第31巻「農人錦の囊」より引用